

デザインの 視線誘導パターン「Z型」「N型」「F型」とは？

視線誘導とは？

デザインや情報を見る人は、一度にすべての情報を見ているのではなく、ひとつひとつの情報を順番に見ています。ですが、載っている情報をすべて見るかはわかりません。大抵の人は、時間をかけてすべての情報を読まないでしょう。駅に貼ってあるポスターも、立ち止まってすべての情報をじっくり見る人は少ないと思います。

なので、見てほしい・知って欲しい情報 つまり、優先順位が高い情報を最初に見てもらする必要があります。まずは優先順位が高い情報を見てもらって、そこから興味を持った人に細かい情報まで見てもらうのです。

では、どうやって優先順位が高い情報を最初に見てもらえるようにしたら良いのでしょうか。そこで登場するのが、視線誘導です。

視線誘導とは……

**「見る人の視線の流れを意図的にコントロールして、
見てほしい情報に誘導する手法」**

視線誘導をすることで、見る順番を誘導し、伝えたい情報を認知しやすくします。優先順位が同じの情報でも、組み立て手順などの順番が重要になる情報をレイアウトするのにも役立ちます。

視線誘導の3つの型

視線誘導には「Z型」「N型」「F型」の3つの型があります。それぞれの型に特徴があり、適した条件も異なりますので、制作するデザインに適した型を正しく選びましょう。

Z型

Z型の視線誘導は、視線が
左上→右上→左下→右下
の順に動くパターンです。

Z型のデザインでは、左上が1番最初に見られることが多いので、優先順位が高い情報は左上に配置します。

最後に右下で視線が止まるので、「お問い合わせはこちら」などの次のアクションにつながる情報を右下に入ると効果的です。

初見で全体をなんとなく把握できるのも特徴です。

横書きの文字が多い場合や、左開きの本などでよく使用されます。



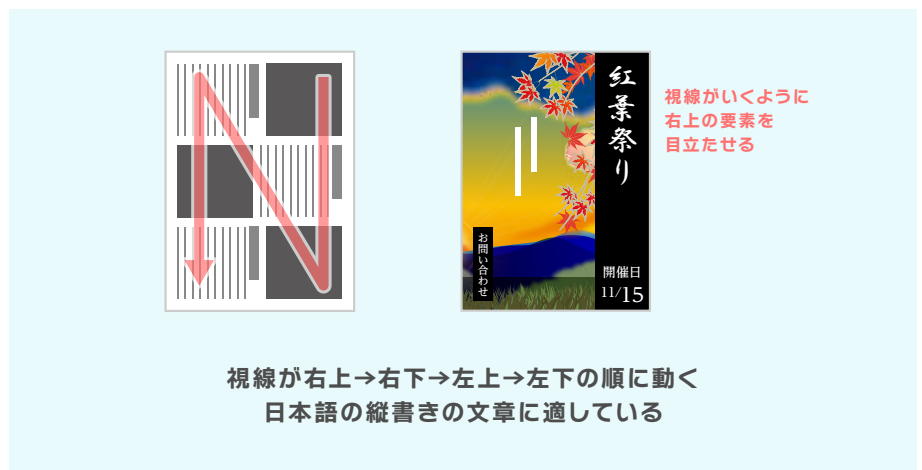
N型

N型の視線誘導は、視線が
右上→右下→左上→左下
の順に動くパターンです。

日本語の縦書きがある場合は、N型が適しています。

N型のデザインでは、右上を最初に見られることが多いので、見出しなどの優先順位が高い情報を右上に配置します。

縦書きが使われる、新聞や雑誌などの右開きの本でよく使用されます。逆にWEB媒体では基本的に使用されません。

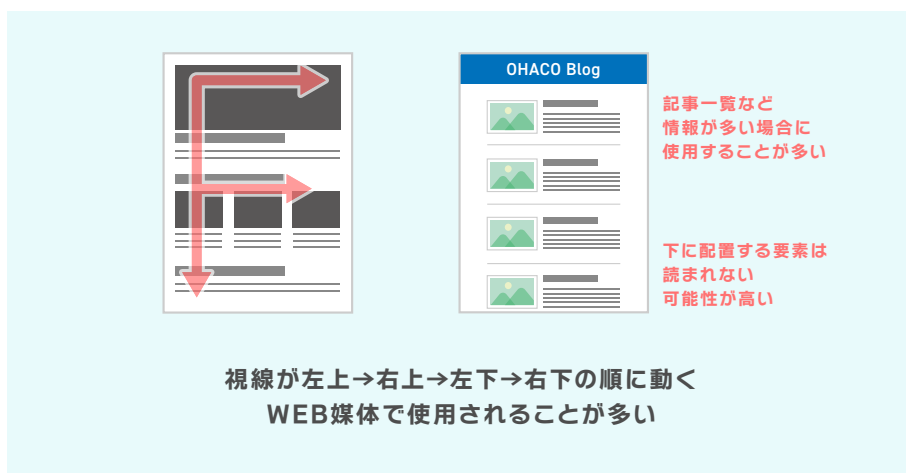


F型

F型の視線誘導は、視線が
左上→右上→左下→右下
の順に動くパターンです。

主にブログやSNSなどWEB
媒体で使用されることが多く、
アルファベットのFのように見る人
の視線が動くため、『F型』と呼ば
れています。

重要な情報は一番上の段に水平
に配置すると効果的である一方
で、右下や最後までは見る人が
読まない・流し読みするという性質
もあります。



まとめ

- 視線誘導とは、見る人の視線の流れを意図的にコントロールして、見てほしい情報に誘導する手法
- Z型は横書きのデザインや全体把握に適している
- N型は日本語の縦書きのデザインに適している
- F型は主にWEB媒体のデザインに適している

記事・資料制作 | 株式会社SMC-POWER (<https://smc-power.jp/>)

本資料の再配布、資料を加工した転載や配布、販売は禁止させていただきます。
利用で発生した障害や事故などに関していかなる保証も行いません。

